



JABEE対応教育プログラム
「都市デザイン工学応用コース」

履修の手引き

2023(令和 5)年度入学生用

学籍番号	氏 名

目 次

1. 教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」について	1
1.1 概要	1
1.2 育成しようとする技術者像及びアドミッション・ポリシー	1
1.3 学習・教育到達目標	1
1.4 履修対象者	3
1.5 履修科目	4
1.6 評価方法と評価基準	4
1.7 学習・教育目標に対する達成度の継続的な点検	4
1.8 修了要件	5

2. 日本技術者教育認定機構（J A B E E）について	6
-------------------------------	---

資料

1 学習・教育到達目標と基準 1 の(1)の(a)～(h)との対応	7
2 年次別授業科目配当表	8
3 「都市デザイン工学応用コース」履修者登録願	10
4 「都市デザイン工学応用コース」履修者登録変更願	11
5 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ	12
6 単位修得状況チェックシート	13



1. 教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」について

1.1 概要

この手引きは、「九州産業大学建築都市工学部授業科目履修規程」、「九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース履修要領」及び「履修ガイド」の規定に基づき、教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」（以下「応用コース」という）に関し、必要な事項を定めるものとする。

1.2 育成しようとする技術者像及びアドミSSION・ポリシー

（育成しようとする技術者像）

本プログラムが目指すべき人物像は、「実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者である。具体的到達目標は、幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につけることである。」と定めている。

（アドミSSION・ポリシー）

都市デザイン工学応用コースでは、以下の条件を満たす学生を受け入れる。

- 1 都市デザイン工学応用コースが育成しようとする技術者をを目指す意欲を有する学生
- 2 都市デザイン工学応用コースの修了に必要な学修の基礎が3年前期の開始時点で修得できている学生

1.3 学習・教育到達目標

「土木デザイン分野」、「都市防災分野」、「まちづくり分野」、「環境緑化分野」の4分野を柱とし、橋梁や建築などの構造物や街並みの設計・デザイン、生態系の保全まで、幅広い分野の技術と知識の修得を目指し、住みよいまちづくりを学び研究する。学習・教育到達目標はつぎのとおりである。

- (A) 幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につける。
- (B) 技術者としての社会に対する責任と倫理観を身につける。
- (C) 情報処理に関し、基礎知識および実務的处理能力を身につける。
- (D) 数学および自然科学の基礎知識および応用能力を身につける。
- (E) 構造力学、地盤工学、建設材料工学、水理学、まちづくり学、測量学の各分野の基礎知識および応用能力を身につける。
- (F) 実験・実習科目を通して、理論に対する理解を深めるとともに、現象を正確に把握する能力を身につける。
- (G) 演習科目を通して、自ら学習する能力を身につけるとともに、自然と調和したデザイン能力を習得する。
- (H) 実務的な専門知識と応用技術を身につける。
- (I) 日本語による簡潔な文章表現能力、コミュニケーション能力、口頭発表能力を身につけ、英語を通して異なる国の人と仕事のできる基礎的能力を習得する。
- (J) 自主的に学習し、それを継続できる生涯学習能力を身につける。
- (K) 都市デザイン工学の専門知識を総動員し、与えられた制約の下で、社会に役立つ実務を計画・遂行する能力を身につける。

学科の学習・教育到達目標と JABEE の基準の対応は、資料 1 (表-1) に示すとおりである。

1.4 履修対象者

(1) 応用コース登録要件

応用コースに登録するには、2年次終了までに、資料2（年次別授業科目配当表）のうち、次の要件を満たさなければならない。

- ①構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、地盤工学Ⅰ、地盤工学Ⅱ、水理学Ⅰ及び水理学Ⅱのうち8単位以上を修得していること
- ②1、2年次に配当されている「専門必修科目」並びに構造力学演習Ⅰ、地盤工学演習Ⅰ、水理学演習Ⅰ、まちづくり学演習、応用測量学、都市防災学Ⅰ、建設材料工学演習、情報処理演習、植物学、応用生態学のうち50単位以上を修得していること。
- ③「基礎教育科目」を12単位以上修得していること
- ④「外国語科目」を4単位以上修得していること

(2) 登録

応用コースにおける技術者教育プログラムを履修しようとする者は、所定の期日までに資料3の「都市デザイン工学応用コース履修者登録願」により願い出なければならない。

(3)登録者の卒業研究着手要件

応用コースに登録した者は、別表（年次別授業科目配当表）のうち、次の要件を満たさなければ卒業研究を履修することができない。

- ①卒業に必要な124単位のうち、「卒業研究及び卒業実習以外」すべての単位を修得していること
- ②構造力学演習Ⅰ、地盤工学演習Ⅰ、水理学演習Ⅰ、まちづくり学演習、植物学、情報処理演習、応用測量学、都市防災学Ⅰ、建設材料工学演習、応用生態学、土木統計学、河川工学、構造力学演習Ⅱ、地盤工学演習Ⅱ、水理学演習Ⅱ、景観デザイン演習、土木デザイン実習、コンクリート構造工学Ⅱ、緑化工学、インターンシップの単位を修得していること

(4)コースの変更

応用コースから都市デザイン工学科都市デザイン工学一般コース（以下「一般コース」という）への変更を希望する者は、年度始めの所定の期日までに、資料4の「都市デザイン工学応用コース履修者登録変更願」により願い出なければならない。

応用コースから一般コースへ変更した者は、応用コースに再登録することはできない。

1.5 履修科目

学習・教育目標と履修科目との関係は、シラバスおよび資料5の「学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ」に示すとおりである。

1.6 評価方法と評価基準

履修科目の評価方法と評価基準は、学生便覧および各科目のシラバスに示すとおりである。

1.7 学習・教育到達目標に対する達成度の継続的な点検

学習・教育到達目標と履修科目との関係から、資料6の「単位修得状況チェックシート」で学習・教育到達目標の達成度を継続的に点検し、その学習に反映させなければならない。

各学年の前期学期末・後期学期末に、担任と面談し、担任に「単位修得状況チェックシート」を提出すること。

1.8 修了要件

応用コースを修了するには、卒業研究の単位を修得し、履修規程第2条に定められた卒業に必要な124単位以上（専門必修科目：56単位、専門選択科目：48単位以上、基礎教育科目：14単位以上、外国語科目：英語6単位以上）を、修得しなければならない。

2. 日本技術者教育認定機構(JABEE)について

この教育プログラムは、2009 年 5 月に日本技術者教育認定機構（J A B E E）の認定を受けた。これにより、平成 20 年度の修了生から、技術士第一次試験（建設部門）合格と認定され技術士補の資格を取ることができる。技術士補として技術士を補助した期間が 4 年（大学院修了後実務経験 2 年）をこえる者は、技術士第二次試験（建設部門）に合格すると技術士（建設部門）となることができる。

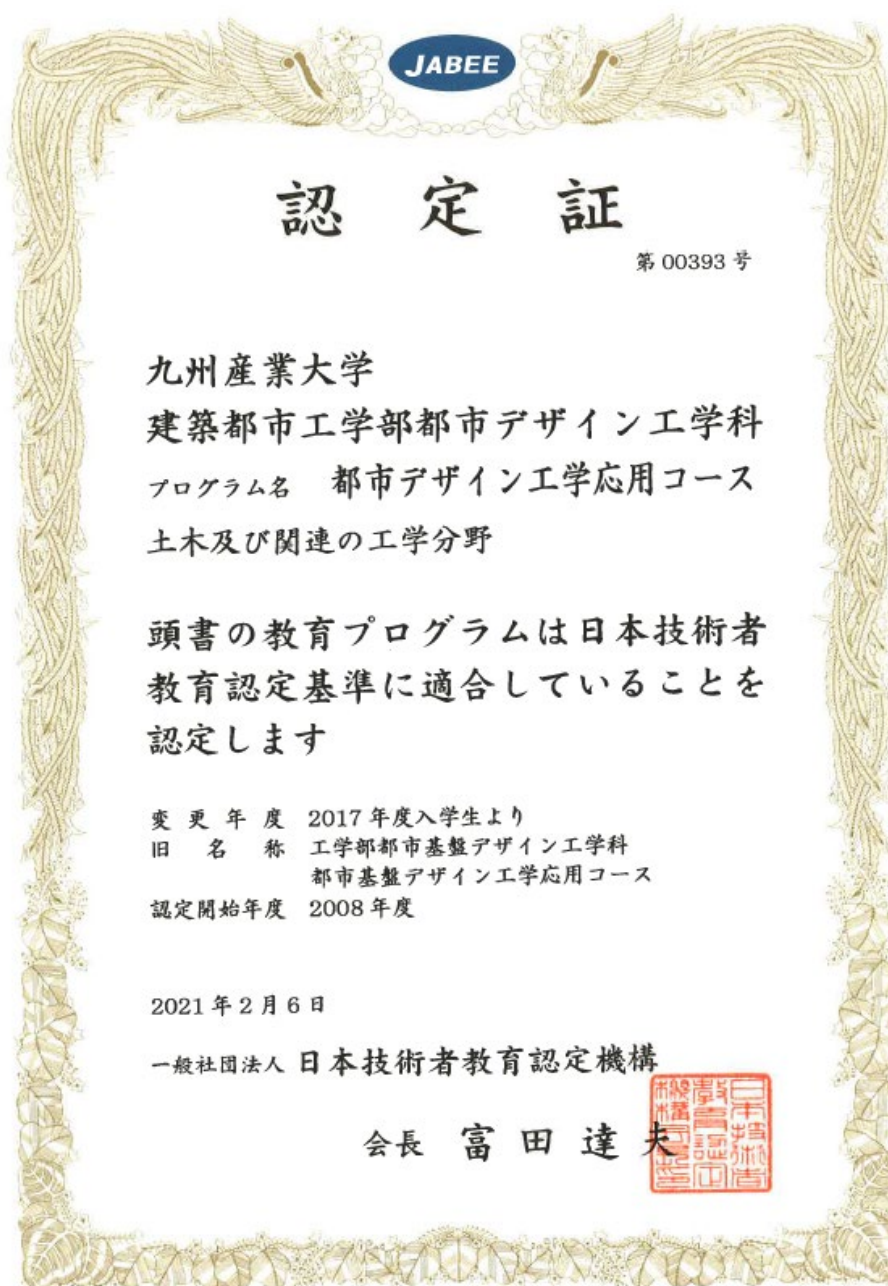


表-1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応

基準1(2)の 知識・能力 学習・教育 到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
(A)	◎								
(B)		◎							
(C)			◎						
(D)			◎	◎					
(E)				◎					
(F)				◎					◎
(G)				◎	◎				○
(H)				◎					
(I)						◎			
(J)							◎		
(K)					◎			◎	○

[JABEEで要求される知識・能力]

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対する貢献と責任に関する理解
- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

[本学科で科目ごとに設定している到達目標]

- (A) 幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につける。
- (B) 技術者としての社会に対する責任と倫理観を身につける。
- (C) 情報処理に関し、基礎知識および実務的処理能力を身につける。
- (D) 数学および自然科学の基礎知識および応用能力を身につける。
- (E) 構造力学、地盤工学、建設材料工学、水理学、まちづくり学、測量学の各分野の基礎知識および応用能力を身につける。
- (F) 実験・実習科目を通して、理論に対する理解を深めるとともに、現象を正確に把握する能力を身につける。
- (G) 演習科目を通して、自ら学習する能力を身につけるとともに、自然と調和したデザイン能力を習得する。
- (H) 実務的な専門知識と応用技術を身につける。
- (I) 日本語による簡潔な文章表現能力、コミュニケーション能力、口頭発表能力を身につけ、英語を通して異なる国の人と仕事のできる基礎的能力を習得する。
- (J) 自主的に学習し、それを継続できる生涯学習能力を身につける。
- (K) 都市デザイン工学の専門知識を総動員し、与えられた制約の下で、社会に役立つ実務を計画・遂行する能力を身につける。

表-2 年次別授業科目配当表

(凡例) ゴシック体の科目：応用コースを修了するために必ず修得しなければならない科目

建：建築士試験の受験資格要件（指定科目）、ビ：ビオトープ管理士試験一部免除科目、環：環境再生医対応科目

区分		第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
専 門 科 目	必修	建 築 都 市 入 門	2	建 構 造 力 学 Ⅱ	2	環 境 水 理 実 習	2	卒 業 研 究 卒 業 実 習	6 4
		基 礎 数 学	2	建 地 盤 工 学 Ⅱ	2	応 用 ゼ ミ ナ ー ル	2		
		基 礎 物 理	2	建 水 理 学 Ⅱ	2	建 建 コ ン ク リ ー ト 構 造 工 学 Ⅰ 技 術 者 倫 理	2		
		設 計 製 図 Ⅰ	2	建 建 設 材 料 実 験	2				
		水 理 学 Ⅰ	2	建 建 設 C A D 演 習	2				
		構 造 力 学 Ⅰ	2	建 ま ち づ くり 学	2				
		地 盤 工 学 Ⅰ	2	建 景 観 デ ザ イン	2				
		グ リ ー ン イ ン フ ラ 論	2						
		基 礎 測 量 学	2						
		測 量 学 実 習	2						
	建 建 設 材 料 工 学	2							
	ビ 環 基 礎 環 境 学	2							
	選択	環 植 物 学	2	都 市 防 災 学 Ⅰ	2	構 造 力 学 演 習 Ⅱ	2	建 建 施 工 管 理 学 海 岸 港 湾 工 学 耐 震 工 学 建 築 製 図 Ⅱ	2 2 2 2
		情 報 処 理 演 習	2	応 用 測 量 学	2	地 盤 工 学 演 習 Ⅱ	2		
				水 理 学 演 習 Ⅰ	2	水 理 学 演 習 Ⅱ	2		
				構 造 力 学 演 習 Ⅰ	2	河 川 工 学	2		
				地 盤 工 学 演 習 Ⅰ	2	土 木 デ ザ イン 実 習	2		
			建 建 設 材 料 工 学 演 習	2	土 木 統 計 学	2			
		ビ 環 応 用 生 態 学	2	建 建 景 観 デ ザ イン 演 習	2				
			生 態 学	2	コ ン ク リ ー ト 構 造 工 学 Ⅱ	2			
		都 市 防 災 学 Ⅱ	2	緑 化 工 学	2				
		設 計 製 図 Ⅱ	2	イ ン タ ー ン シ ッ プ	2				
択		工 業 概 論	2	植 物 生 態 学 演 習	2				
		ま ち づ くり 学 演 習	2	都 市 防 災 学 演 習	2				
		建 築 設 計 製 図	2	道 路 工 学	2				
		キ ャ リ ア 探 求	2	水 環 境 工 学	2				
				橋 梁 工 学	2				
				プ ロ グ ラ ミ ン グ 入 門	2				
				職 業 指 導	2				
				建 建 築 生 産	2				
				建 建 築 法 規	2				
				建 建 造 力 学 Ⅲ	2				
			ビ 環 環 境 法 規	2					
			建 建 築 製 図 Ⅰ	2					
			建 保 存 修 景 計 画	2					
			建 建 築 デ ザ イン	2					

※ 1 建築士試験の受験資格要件（指定科目）である科目については、2 年次「建築設計製図」の単位取得を履修要件とすることがある。

表-3 年次別授業科目配当表

区 分		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次
		授業科目 (単位)	授業科目 (単位)	授業科目 (単位)	授業科目 (単位)
基 礎 教 育 科 目	科目導入	大学スタディスキル (2)			
	学修基礎	実用国語 (文章力) (2)	実用国語 (伝達力) (2)		
		実用数学 (計算力) (2)	実用数学 (活用力) (2)		
		くらしの中の数学 (2)			
		AI導入 (2)			
		プログラミング導入 (2)			
		データリテラシー (2)			
	キャリア	キャリア形成基礎論 (2)	キャリア開発論 (2)	キャリア形成戦略 (2)	
		主権者リテラシー (2)			
		消費者リテラシー (2)			
		九産大力 (2)			
		学生サポーター (2)			
		学生ボランティア入門 (2)			
	文理芸融合科目	実践クロス講座 (2)		インタラクティブディスカッション (2)	
		実践クロス演習 (2)			
育 目	クロス	実践力育成演習 (2)			
		課題解決演習 (2)			
	コラボ	教養講座 (2)			
		実践コラボ講座 (2)			
		実践コラボ演習 (2)			
	人文科学科目	日本の歴史 (2)			
		世界の歴史 (2)			
		哲学の世界 (2)			
		文学の世界 (2)			
		心理学の世界 (2)			
	社会科学科目	文化人類学 (2)			
		美学・美術史 (2)			
		芸術の世界 (2)			
		人文科学の世界 (2)			
		法学 (2)			
外 国 語 科 目	社会科学科目	日本国憲法 (2)			
		現代の政治 (2)			
		地理の世界 (2)			
		人権・同和問題 (2)			
		ジェンダーと社会 (2)			
	自然科学科目	社会科学の世界 (2)			
		科学の世界 (2)			
		地球環境 (2)			
		生物の世界 (2)			
		自然科学の世界 (2)			
外 国 語 科 目	健康科目	スポーツ科学演習 (2)			
		心と身体 (2)			
	共通英語	Reading & Writing I (1)	Reading & Writing II (1)	Reading & Writing III (1)	Reading & Writing IV (1)
		Listening & Speaking I (1)	Listening & Speaking II (1)	Listening & Speaking III (1)	Listening & Speaking IV (1)
		English Plus (1)			
	キャリアイングリッシュプログラム	English Expressions (2)			
		Four Skills I (2)	TOEIC Plus (2)		
		Four Skills II (2)	Reading Focus (2)		
		Labo Training I (1)	Writing Focus (2)		
		Labo Training II (1)	Business English (2)		
外 国 語 科 目	初修外国語科目	Domestic Job Training (4)	English Pronunciation (2)		
		Overseas Job Training (4)	Introduction to Translation (2)		
			Global Perspectives (2)		
		ドイツ語 I (1)	ドイツ語 II (1)	ドイツ語 III (1)	ドイツ語 IV (1)
		ドイツ語会話 I (1)	ドイツ語会話 II (1)	ドイツ語会話 III (1)	ドイツ語会話 IV (1)
	初修外国語科目	フランス語 I (1)	フランス語 II (1)	フランス語 III (1)	フランス語 IV (1)
		フランス語会話 I (1)	フランス語会話 II (1)	フランス語会話 III (1)	フランス語会話 IV (1)
		韓国語 I (1)	韓国語 II (1)	韓国語 III (1)	韓国語 IV (1)
		韓国語会話 I (1)	韓国語会話 II (1)	韓国語会話 III (1)	韓国語会話 IV (1)
		実用韓国語 (1)	上級韓国語 (1)		
外 国 語 科 目	初修外国語科目	中国語 I (1)	中国語 II (1)	中国語 III (1)	中国語 IV (1)
		中国語会話 I (1)	中国語会話 II (1)	中国語会話 III (1)	中国語会話 IV (1)
		実用中国語 (1)	上級中国語 (1)		
	初修外国語科目				

※「クロス科目」は、各学部の学生が交差（クロス）して取り組む授業科目を指す。

※「コラボ科目」は、各学部の教員が協働（コラボレーション）して実施する授業科目を指す。

区 分		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次
		授業科目 (単位)	授業科目 (単位)	授業科目 (単位)	授業科目 (単位)
関 連 する 科 目	日本語	アカデミック日本語 (読む・書く) A (1)	アカデミック日本語 (聞く・話す) A (1)	実践アカデミック日本語 (読む・書く) A (1)	グローバル日本語 (1)
	日本語	アカデミック日本語 (読む・書く) B (1)	アカデミック日本語 (聞く・話す) B (1)	実践アカデミック日本語 (読む・書く) B (1)	
関 連 する 科 目	日本語	アカデミック日本語 (読む・書く) C (1)	アカデミック日本語 (聞く・話す) C (1)	実践アカデミック日本語 (聞く・話す) A (1)	
	日本語	アカデミック日本語 (読む・書く) D (1)	アカデミック日本語 (聞く・話す) D (1)	実践アカデミック日本語 (聞く・話す) B (1)	
関 連 する 科 目	日本語	アカデミック日本語 (読む・書く) E (1)	アカデミック日本語 (聞く・話す) E (1)		
	日本語				
関 連 する 科 目	日本語	日本の歴史 I (2)	日本の歴史 II (2)	日本の文化 I (2)	日本の文化 II (2)
	日本語	日本の政治経済 I (2)	日本の政治経済 II (2)	一般日本事情 I (2)	一般日本事情 II (2)

年 月 日

J A B E E 対応教育プログラム
「都市デザイン工学応用コース」履修者登録願

九州産業大学建築都市工学部長 殿

九州産業大学建築都市工学部授業科目履修規程、九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース履修要領、履修ガイド及び履修の手引きの規定を理解した上で、J A B E E 対応教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」の履修者として登録します。

九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科

学生番号 _____

氏 名 _____ 印

年 月 日

J A B E E 対応教育プログラム
「都市デザイン工学応用コース」履修者登録変更願

九州産業大学建築都市工学部長 殿

J A B E E 対応教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」の履修者として登録しましたが、九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース履修要領第 6 条に基づき、下記の理由により「一般コース」へ変更します。

変更理由 _____

九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科

学生番号 _____

氏 名 _____ 印

表-5 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育 の目標	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	基礎教育科目							
				建築設計製図 (△建)	建築生産 (△建)	建築製図Ⅰ (△建)	建築製図Ⅱ (△建)	住居環境入門 (他建)
					保存修景学 (△建)	建築法規 (△建)	住居設備 (他建)	建築史 (他建)
					住宅構法概論 (他建)	建築デザイン (△建)	施設計画 (他建)	住宅計画 (他建)
				工業概論 (△教職)	職業指導 (△教職)			
(B)	グリーンインフラ論 (◎)	建築都市入門 (◎)		キャリア探求 (△)		技術者倫理 (◎)		
(C)		情報処理演習 (○)	建設CAD演習 (◎)		プログラミング入門 (△)			
(D)	基礎数学 (◎)							
	基礎物理 (◎)							
	基礎環境学 (◎)	植物学 (○)	生態学 (△)	応用生態学 (○)	緑化学 (○)			
(E)		構造力学Ⅰ (◎)	構造力学演習Ⅰ (○)	構造力学Ⅱ (◎)	構造力学演習Ⅱ (○)	構造力学Ⅲ (△)		
		建設材料工学 (◎)	建設材料工学演習 (○)		コンクリート構造工学Ⅰ (◎)	コンクリート構造工学Ⅱ (○)		
		地盤工学Ⅰ (◎)	地盤工学演習Ⅰ (○)	地盤工学Ⅱ (◎)	地盤工学演習Ⅱ (○)			
		水理学Ⅰ (◎)	水理学演習Ⅰ (○)	水理学Ⅱ (◎)	水理学演習Ⅱ (○)			
			まちづくり学 (◎)			土木統計学 (○)		
	基礎測量学 (◎)		応用測量学 (○)					
(F)		測量学実習 (◎)	建設材料実験 (◎)		環境水理実習 (◎)	土木デザイン実習 (○)		
(G)		設計製図Ⅰ (◎)		設計製図Ⅱ (△)	植物生態学演習 (△)			
				まちづくり学演習 (○)	景観デザイン演習 (○)			
					都市防災学演習 (△)	応用ゼミナール (◎)		
(H)			都市防災学Ⅰ (○)	都市防災学Ⅱ (△)	河川工学 (○)	水環境工学 (△)	耐震工学 (△)	
				景観デザイン (◎)	環境法規 (△)		海岸港湾工学 (△)	
					道路工学 (△)	橋梁工学 (△)	施工管理学 (△)	
					インターンシップ (○)			
(I)	外国語科目							
						応用ゼミナール (◎)	卒業実習 (◎)	
(J)							卒業研究 (◎)	
(K)							卒業研究 (◎)	

基礎教育科目、外国語科目の詳細については【資料2】を参照

◎: 必修科目 △: 選択科目
○: 応用コースを修了するために必ず修得しなければならない科目

各科目の単位修得状況チェック（単位を修得した科目は、「修得」の欄（水色セル）に単位数を記入）

[illegible]

凡例) * : 必修科目、□ : 選択科目、■ : 応用コースを修了するために必ず修得しなければならない科目

建：「正規の建築に関する基礎」該当科目
ビ：ピオトープ管理士試験一部免除科目

※大学の教育課程Aの建築士受験資格指定科は、2年後期の「建築設計Ⅱ」の単位を修得済の建築士を目指す学生であることが履修要件

【担任記入 西暦記録】

受領日 年 月 日

☐ チェックシートの学習・教育目標の達成度を確認した。
☐ 応用コースの履修について適切な履修指導を行った。
☐ 単位修得状況を把握し、適切な履修指導を行った。
☐ 資格取得について指導をおこなった。
☐ 面談内容を「K's life」に登録した。
☐ その他（学生の要望・質問、面談メモ）

面談内容をK's Liteに登録した。その他の(学生の要望・質問、面談メモ)

学習・教育目標の達成度(後考・卒業)		学年
(A)	単位取得 / 14単位以上	学年：第 _____ 年次 学期：第 _____ 学期 氏 名： _____ 学 号： _____ 講義コース： 応用コース 一般コース 履修科目の選択状況を記入してください。
(B)	単位取得 / 14単位以上	
(C)	単位取得 / 14単位以上	
(D)	単位取得 / 14単位以上	
(E)	単位取得 / 14単位以上	
(F)	単位取得 / 14単位以上	
(G)	単位取得 / 14単位以上	
(H)	単位取得 / 14単位以上	
(I)	単位取得 / 14単位以上	
(J)	単位取得 / 14単位以上	
(K)	単位取得 / 14単位以上	

【4年生のみ記入】

●卒業生がエフェクト（卒業生が科目修得枚数4単位を課す）	
●専門必修科目修得枚数2（48単位必修）	
●2学期間開講科目修得枚数2（48単位必修）	48単位以上の場合は48と記入
●4学期間開講科目修得枚数2（48単位必修）	14単位以上の場合は12と記入
●基礎教科科目修得枚数2（14単位必修）	6単位以上の場合は6と記入
●基礎科目修得枚数2（基礎2科目必修）	14単位必修
上記①～④の単位数の合計（114単位必修）	